

特集  
—— 全日本総合4連覇 ——

“チームプレイに徹し  
バスケットを楽しく”  
アイシン鈴木ヘッドコーチに訊く



鈴木貴美一氏  
すずききみかず

《プロフィール》  
1971（昭和34年生まれ）  
東京都出身、能代工業高校から法政大学  
を卒業、日本鉱業へ。フォワードとして  
活躍、どのポジションでもこなせる器  
用な選手として日本代表選手にも。  
故障のため若くして引退後、7年間の秋  
田経法大学コーチを経てアイシン・ヘッ  
ドコーチに就任して10年。  
2002～05年オールジャパン4連  
覇を達成した。

—— オールジャパン優勝おめでとうございます。  
これで4連覇という記録を作りましたね。

有難うございます。4連覇というのは数十年前日  
本鉱業が達成してから久しぶりの記録だそうで、大  
変名誉なことです。

—— 今回のオールジャパン制覇の要因はどのあた  
りでしょうか？

すべての試合を通してディフェンスが良かったと  
思います。うちはシュートがあまり入りませんが、  
それ以上にディフェンスを頑張ったことで相

手チームのシュートが外れ、マッカーサー選手のり  
バウンド数も多くなり、勝利につながったと思いま  
す。

バスケットボールでは相手をゼロ点に抑えるなど  
ということはありませんので、いかにして相手に  
苦しいシュートを打たせて失点を少なくするかがポ  
イントになります。試合の流れとしてある約束事を  
組み立てて、相手をその許容限度内に押さえ込むこ  
とがうちのやりかたです。

—— 30代の選手が大活躍していますが、ベテラ  
ン選手を多く使うきっかけは何だったのでしょうか？

私が10年前にアイシンへ入ったとき、将来日本  
代表選手になるような大学生の大物を採用しようと  
して声をかけたのですが、会社が愛知県の刈谷とい  
う田舎町にあったせいでしょうか、なかなか来ても  
らえませんでした。当時の学生はみんな都会に会社  
があるチームに目が向いていたようです。

ちょうどその頃、日本リーグチームの休部や廃部  
が相次ぎ、移籍可能な一線級の選手が出てきました  
ので、それらの選手に目をつけました。第一線で通  
用するこれらの選手は、一歩間違えると悪い方向へ  
走ってしまうこともあります。逆にうまく機能す  
ればいい方向へまともなると判断して、ベテランの  
移籍選手を集める努力を始めました。このような移  
籍選手を多く集めるためにはそれなりの条件と工夫  
が必要です。もちろん会社にも目的などを良く理  
解していただく必要がありました。

—— 結果的に鈴木さんの目の付け所は良かったわ  
けですね。

彼らは契約選手というプロ待遇ですから、勝たな  
ければ報われないわけです。年齢的には上でも勝て

るチームを作れば彼らも目立つようになるし、待遇的にも改善されるわけですから、如何にして勝てるチームを作るかでした。経験豊富で失敗もさんざん舐めてきた選手たちは、勝ち方を知っています。体力的には若干劣るかもしれませんが、バスケットボールというスポーツは体力だけがものを言うスポーツではありません。オンザコートで5人が如何に協力して得点をするのか、どうやって相手の得点を自チームの得点以下に押さえ込むか、というようなことを考えることも必要なのです。

—— 試合で見ると彼らは本当に一生懸命プレイしているようですが？

元いすゞから来た佐古選手や、NKKを辞めた後藤選手など個性の強い選手が、一生懸命にやってくれています。各選手とも特徴がありますので、それをいい方向へまとめていくようにやっています。それぞれの選手がかなりの技術や豊富な経験を持っていますが、自分勝手にプレイをしてしまうとチームバスケットが壊れてしまいます。コートにいる5人の選手が一致協力することが重要なのです。

彼らはアイシンに来てから更にチームプレイを重視するようになりました。年齢とともに身体能力は多少落ちますが、技術力や状況判断能力はまだまだ上昇しています。

私はバスケットボールをイメージ的に言うと、大体26歳くらいまでは身体でバスケットを覚えて伸びる段階、それからは頭脳的にバスケットを覚える時期と見ています。昔と違って最近では健康管理も充実しており、単に年齢が上がったからといってプレイが悪くなるわけではありません。例えば外山選手などは技術的にもまだ伸びており、常に考えながらプレイできる選手のひとりだと思います、長い間プレイを続けたいという人のお手本のような存在で40歳くらいまでプレイできるのでないですか。

—— ベテラン選手の味をうまく引き出しているということですね。

外山選手や佐古選手はアイシンに来たばかりの時は、あまりチームにかみ合いませんでした。当然、試合への出場時間も多くありませんでした。それが少しずつ良くなって一人一人がチームに馴染もうと努力し、自分自身がチームプレイに徹することの重要性に気がついたのだと思います。個人プレイはやればいくらでも可能ですが、それは個人選手が目立つだけでチームの勝利には結びつきません。ベテラン選手のフルタイム出場は当然無理ですので、ピリオド間のタイムアウトの時間もフルに活用して選手を有効にアジャストしています。あの2分間はチームの建て直しやメンバーアジャストに絶好の時間ですね。JBLの場合、現在ずば抜けているチームはありませんので、どこが勝ってもおかしくないのが現状です。アイシンの場合でも個人プレイが目立った試合は負けていますし、個々の選手が感情的になったり、勝手なプレイをしたりすると結果は必ず悪くなっています。チームプレイに徹していることが勝ち星につながっていると思います。

—— ラグビーなどでもフォアザチームというスタイルができていますが、選手たちをまとめるコツはなんでしょうか？

人は誰でも短所と長所を併せ持っていますが、短所を指摘するとその人の長所にまでブレーキをかけてしまいます。いいところを認めて伸ばすように仕向けたり、いいところを発揮できるような環境を整えてあげるのがコーチの役目だと思います。

例えばフォーメーションひとつとってみても、選手の良いところを引き出すようなことを考えればいいのではないのでしょうか。最近のバスケットは、一人の選手が40分間フル出場するなどということは考えられないほどスピード化されていますし、分担

化されていますから、出場する選手が与えられた時間にどうやって自分のいいところを発揮できるかにかかっています。

—— コーチの指導に対して選手たちの反応は如何ですか？

コーチの言うことをただ「はいはい」と聞いている選手はだめですね。そのときに返事をしていても自分の身についていないから、コートへ出ると云われたことを忘れてしまう。

大体試合中多くのことを言われても、そんなに覚えられないものではありませんので、私は試合中に多くのことは言わないようにしています。

アイシンでは、練習のときなど自分の意見を自由に言ったりしてお互いにぶつけ合っていますが、そのこともチームプレイの向上に役立っています。私たちが育ったころは優等生が好まれる時代でしたが、最近は変わっていると思います。指導が押し付けになると人の個性が発揮できなくなり、ひいてはいいところをつぶしてしまうこともあります。個々の選手が間違った方向へ行きそうなときだけは注意しますが、それ以外は経験や失敗によってその選手の切り替えを図っています。ただし失敗したときコーチに原因の質問があったときは、きちんと答えるようにしています。

—— アイシンのコーチを引き受けるきっかけは？

丁度10年前、当時監督をされていた、杉浦良昭さんという方から懇請されてアイシンに入りました。杉浦さんはアイシンをバスケットで日本一にしたいという情熱を持っておられ、その熱意をすごく感じましたので、日本一を目指して一緒に努力しようと思いました。

私が入った頃は弱小チームで日本一などということは夢のような世界でした。それがいつしか夢から

目標になり、やがて手が届くようになりました。

どんなことでも適当にやっていて一番になるなんてことはあり得ませんし、努力を積み重ねることによって、やがてトップが見えてくるのではないのでしょうか。いすゞが休部になる2~3年前のリーグで初めて3位になりましたが、そのころ「頑張れば何とか手が届きそうだな」と感じました。

—— 鈴木さんご自身は比較的早く選手を引退されて、指導者の道へ進まれましたが現在はどう思っておられますか？

たまたま膝を悪くして28歳で現役を引退しました。若いうちに選手を辞めたことによって、指導者としての勉強に打ち込めましたし、前向きになる意欲が出ました。コーチは選手と比べれば地味な立場であり目立ちませんが、現在は燃焼の真っ最中です。指導者の方も多くおられますが、選手の頃燃えきってしまうと、なかなか指導者としての勉強は大変なのではないかと思えます。

日本鉱業を辞めてから秋田経法大で7年間指導者としてお世話になりましたが、今から考えますと秋田という立地条件や、若いうちから指導者の勉強をしたことが自分にとっては良かったのではないかと思います。

—— 会社の体育館など環境面は如何ですか？

やはり強くなるにつれて会社からも認めていただけるようになり、最初なかった体育館の暖房設備なども今では整っています。私が入った頃は残業などで練習もままならない状況で、バスケットボールを楽しく前向きに取り組ませるのに苦労しました。また、いくら環境が整っても、勝ち続けるということにはあらゆる面での持続性が必要で、結構大変ですね。それにオールジャパンが外国人選手抜きになっ

たことや、競技時間がハーフタイム制からクォーター制になって、ピリオド間のタイムアウトが有効に活用できるなど運がよかったのかも知れません。

---

—— 外国人選手問題についてどう思われますか？

オールジャパンは外国人選手抜きですがトーナメントの一発勝負なので気が抜けません。外国人選手がいると学生チームが対抗できないという意見もあったようですが、外国人抜きになってから学生との差がさらに開いたように感じています。

よく外国人選手がいるから大きい日本人選手がゲームに出られず、育たないのではないかという意見を耳にしますが私は違うと思っています。要は外国人選手に対抗できるような日本人選手を育てればよいことで、プレッシャーをはねのけて外国人選手に追いつくようにすれば日本のレベルアップになると思います。アジアを見ても中国、韓国、台湾などの強い国はみな外国人選手が二人入ってやっていますし、他のスポーツをみても、外国人選手が入っている種目の方が国際的に強くなっています。

---

—— 外国人選手がいるリーグ戦とないオールジャパンとではどちらがやり易いですか？

リーグ戦の方が難しいですね。外国人選手は自分が覚えたディフェンスが身体に染み付いているので、どうしてもファウルトラブルが多くなります。日本でプレイする以上日本の審判の判定にあわせたプレイをするよう言うのですが、ときどき切れてしまいます。結果的にそういうゲームは負けていますので、ゲームのあと良く反省させています。審判も人間なのでから完全に見極めることは不可能であり、プレイヤーに対しては判定にあわせたプレイをするよう要求しています。審判も同じバスケットが好きでやっている仲間ですし、コミュニケーションを良く

して信頼関係を築いていけば済むことで、審判に対して悪い印象を持っている人はいないと思います。オフェンス面から言うと外国人選手がいた方がいいですが、ディフェンス面からみると日本人選手だけの方がいいですね。

---

—— 将来の展望についてはどのように考えておられますか？

先行きのことを考えますと全日本代表選手になれるような人材を採用する必要がありますが、今、若い選手で一生懸命努力している人もいますので、すぐに新人選手をとということではありません。しかしながら、いずれは世代交代という時期が来ると思います。昔はチームの所在地が刈谷だというだけで敬遠されていましたが、強くなったお陰でそれも解消して良い選手がアイシンというチームを注目してくれるようになりました。最近ではアイシンへ入りたいという希望者が多く嬉しい悲鳴です。だからといって誰でも良いということではありませんし、アイシンに入ることによって結果的にその選手をつぶすことがあってはなりませんので、その辺はシビアにみています。

---

—— 会社のバスケットボールへの理解度は如何ですか？

杉浦部長が凄いバスケット情熱家で、会社の信頼度も厚くいろいろと面倒を見てくれています。会社との交渉などにご一緒することはありますが、そちら方面はすべてお任せして私は現場の方をきちんと見る形です。役割分担も明確でそういう点では非常にやり易いですね。組織的にいえば内部からもめて崩壊していく形が一番怖いですし、勝ち続けるためにも組織はしっかりしている必要があります。

アイシンという会社は厳しさもありますが、一生

懸命頑張った人に対しては大変面倒見のいい会社で温かみもあります。バスケットボールについても良く理解して面倒を見てくれていますが、そのことも勝ち続けられる要因になっており、大変感謝しています。

---

—— 工場が大きな火災に合ったことがありますが、体育館などへの影響はありませんでしたか？

体育館とは別の場所だったので影響はありませんでしたが、自動車部品を製造している工場だったので製品の供給に問題が起きました。アイシンは世界各国の自動車会社に製品を納入していますが、工場が焼けたために納品できなくなり、自動車会社の製造ラインがストップするというアクシデントに見舞われました。設計図などの資料も開示したのですが、高品質の部品を低価格で供給できる部品メーカーが他になかったらしいです。

---

—— 日本の男子バスケットについてどう感じていますか？

何と言っても国際的に強くないといけません。現在日本へ帰化している外国人選手が何人か居ますが、そういう選手を使ってでもアジアで勝つ必要があります。また、指導者同志が強化について率直に話し合い、情報交換を密にしていろいろな人の意見を前向きにまとめる形で強化策を作る方がいいと思います。個人指導者のセクト主義はもう通用しない時代になっているのではないのでしょうか。

現在パブリセビッチ・コーチが若い選手を鍛えてくれていますが、やがてはオリンピックに出場することも目標としたチーム作りを期待したいです。そういう点では選手の入れ替えや一部ベテラン選手の起用など、代表選手に刺激を与えることも必要なことです。

それと日本代表選手にもっとプライドを持たせることも大切です。なんとなく代表選手をやっているとか、怪我でもしたら馬鹿らしいとか、いやいやながら代表になっているような雰囲気を変えないといけません。皆が知恵を出し合い、選手たちがプライドを持って代表チームの練習に参加できるような環境を整えることです。過去の成功例にとらわれず、時代に合った強化策や組織を作り上げ、良い結果を出すことが重要なことだと思います。

あと国内での国際ゲームが少ないですね、代表選手が頑張っている姿をもっとアピールさせるためにも、国内で開催する国際ゲームを増やした方がいいです。

---

—— アイシンの強化策や組織作りはどのようにされたのですか？

バスケットボールでも頭から叱られるばかりでは面白くなりません。したがって私は頭ごなしに怒ることは控えていますし、若い人やベテランの意向を理解しながらぎりぎりのことしか言わないようにしています。バスケットが楽しくならないと勝てませんし、選手たちも自分で努力しようという気にならないと思うのです。だからといって緩みだけでは勝てませんので、アイシンでは若い人もベテランも楽しむところと真剣にやるところのメリハリは練習中でも必ずつけています。

---

—— 最近夜のゴールデンタイムにアイシンがテレビで紹介されましたね。

最近、面白いチームということでよく取材していただきます。「ファイブ」という本が出てからテレビでも多く取り上げられるようになりました。今後も漫画に登場したりコマーシャルに出演したりする予定も立てられているようです。「ファイブ」を映画化

しようという計画もあると聞きました。

今はたまたまアイシンが取材されていますが、テレビなどで取り上げられることはバスケット界にとっても良いことだと思います。メディアに売り込むことは人気を高めることにすぐつながりますし、観客を動員する力になります。バスケットは競技人口が多い割には観客が少ないですが、アイシンがテレビに出るようになってから、地方などで急に観客が増えました。やはりテレビの力は凄いですね。

---

—— 今シーズンもいよいよファイナルに近づきました、これからも大いに頑張ってください。

有難うございます。アイシンも頑張りますが、周りも強くなってアイシンを破るようなチームが多くなることも期待しています。アイシンが負けることは、私たちにとって喜ぶべきことではないのですが、それは自分たちの努力が足りないから負けるのであって、さらに努力してレベルアップを図ります。そうやってお互いが切磋琢磨すれば日本のバスケットは必ずレベルアップすると思っています。

—— 本日は有難うございました。

(広報部付記)

このたび、アイシンの栄光への足跡が、障碍をのりこえようとする人間の力強さを描き続ける、ノンフィクション作家、平山譲氏により、「ファイブ」として執筆され出版されました。

図書紹介 「ファイブ」

平山 譲著、日本放送出版協会発行  
鈴木ヘッドコーチ、佐古、外山、後藤、佐藤、マッカーサーの各選手を題材にした書籍  
平成16年10月30日発行、  
250ページ、¥1,500